

【刑 法】

問題 1 および **問題 2** のいずれにも解答しなさい。解答用紙に、各自で「問題 1」、「問題 2」と記入して、解答すること。

問題 1

甲は、スーパーマーケット A 店を解雇された友人乙から A 店内の事務室の金庫に多額の売上金が保管されていることや A 店の裏口の施錠が緩いことを聞き、乙に対し、一緒に閉店後の深夜に A 店に忍び込んで、道具を使って金庫を解錠し、売上金を盗み出そうと持ちかけた。心配性の乙は、犯行が発覚して捕まることを恐れ、当初犯行に加わることに難色を示していたが、甲から、盗んだ現金を山分けにすることを提案されたため、金欲しさから犯行に加わることを了承した。

犯行日と決めていた当日、甲と乙は A 店に行き、乙が言った通り施錠の緩い裏口ドアから A 店内へと侵入した。甲と乙はすぐに事務室を見つけたため、扉を開けて中に入ったところ、金庫があるのを発見した。そこで、甲が、持参した道具を用いて金庫の解錠を試みていたところ、外からパトカーのサイレンの音が聞こえた。乙は、自分達の犯行が発覚したのではないかと心配になり、甲に対して、「バレたかもしれない。犯行を中止して、今すぐ逃げよう。」と提案したが、甲は、「心配しすぎだ。あとちょっとで解錠できそうだから、もう少し待っていてくれ。」と取り合おうとしなかった。焦った乙は、甲に解錠作業を止めさせるため、右手で甲の腕を掴み、強く引っ張った。甲は、金庫を解錠して、中にある現金を奪うためには、乙をどうにかする必要があると考え、乙による妨害を排除するために、乙の頭部を殴打した。これにより、乙は失神し、加療 1 ヶ月を要する頭部打撲の傷害を負った。

その後、甲は、金庫を解錠することに成功し、金庫内にあった売上金を持参した袋に詰め込んだ。甲は、乙を連れて帰ろうとしたが、失神した乙が目を覚ます気配がなかったため、仕方なく乙をその場に放置したまま、奪った売上金を持って一人で A 店から立ち去った。なお、外から聞こえたサイレンの音は、隣町で起きた暴行事件の現場に向かうパトカーが鳴らしていたものであり、甲らの犯行とは全く無関係であった。

以上の事例における、甲及び乙の罪責について、具体的な事実を摘示しつつ論じなさい（特別法違反の点を除く。）。

問題 2

丙は、BがCから盗んだ絵画を保管するようBから頼まれ、絵画を預かったが、自分の飲食代に使うためにその絵画を第三者に売却した。丙に、横領罪（刑法252条）が成立するかどうかについて論じなさい。